

投資家の皆様へ

日頃より、弊社に対して多大なるご支援をいただきまして誠にありがとうございます。また昨今の株価下落に伴い、ご心配をおかけしまして誠に申し訳ございません。

現在、資本増強策に関して鋭意努力しております。一日でも早く発表できるようにしたいと考えております。

弊社ホームページ上でも本年度における中間決算説明会の動画を紹介しておりますが、その中で「9月初めには資本増強策を発表したい」旨ご説明をさせていただいており、その発表が遅れていることも併せましてお詫び申し上げます。一部では、9月末倒産説なるものが流れているようで、弊社にも問合せが多数入ってきておりますが、一切、事実無根であり、そのような事実はございません。弊社としましては、資本増強策の発表が先ずは、急務であると考え、現在最終の詰めをしている段階でございます。

わたしが、1月31日に弊社の代表取締役役に就任して、最初に実施したのが、弊社保有資産の抜本的な見直しでございます。昨年12月に前経営体制の下、中期経営計画を発表しましたが、この計画をより確実なものにするためには、達成時期は変わらずとして、最初の2006年度におけるリストラクチャリングを徹底すべきであると捉えたからであります。2008年度の計画達成のためには、初年度における改革の重要性が不可欠であると考え、初年度に負荷をかけた施策によって、2年目からの飛躍を着実なものにしたいからです。よってこの上半期においては投資家の皆様にはご迷惑をおかけしましたが、51億にも上る「特別損失」を計上することを判断しました。しかしながらこの判断の基準となったのは、昨年第4四半期からの当社の主力ブランドである「高田屋」「とり鉄」「升屋」の既存店昨年対比売上が直営、F C共に100%を上回る、業績回復を見せてきたからであります。今年に入って、多少の凸凹はありますが、上半期トータルでも上記主力ブランドは好調を維持しています。現在、飲食業界においては、居酒屋の既存店昨年対比売上が95~96%と連続して昨年割れが続く中において、非常に光が差していると確信しました。昨年からの直営店舗の縮小により、既存店に人員を厚く登用し、また、商品開発人員なども拡充し、さらにはF C店舗指導の自社S Vのスタートに伴ってS Vへの人材を厚くした成果が出てきていると考えております。本業の業績が上昇すれば、あとはバックオフィスの整備であります。本部維持コストを限りなく圧縮し、低コスト体質に転換することで収益率の高い、企業体質に転換することを2006年中にスタンバイさせることが2007年からのジャンプアップにつながると考えました。

以上の事由により、この中間期の実績となったことで、一時、債務超過の状態になりましたが、期末時点での超過ではありませんので、上場廃止基準には抵触いたしません。当然のことながら、自己意思での特別損失計上であったため、同時に資本増強策に関しては並行して推進しており、この期末の段階においては解消される予定でございます。

また多くの投資家の皆様より、株主優待制度に関してお問合せをいただいております。先ずこの中間期におきましては、9月下旬に発送させていただく予定になっております。一部、昨年と比較して発送時期が遅いのではないかというお問合せも頂いておりますが、昨年は8月に臨時株主総会の開催などがあり、発送時期が変更となっており、例年はいつもの時期での一括発送となっておりますのでご理解のほどお願い申し上げます。また、株主優待制度の変更に関してですが、本年2月10日に発表いたしました決算短信にも記載のとおり、制度内容の変更に関しては、今年の本社の課題として考えております。但し、多くの株主の方より、継続の希望のお問合せもいただいている現状も鑑み、弊社の定時取締役会においても慎重に協議している段階でございます。上場企業としてのあるべき姿、その成長性等トータルで判断し、変更などが決まった場合にはホームページ等含めて、適宜開示を行って参りたいと存じます。

冒頭にも触れましたが、先ずは一日も早い段階で、資本増強の発表を行い、投資家の皆様に安心していただける財務基盤を整えた上で、来期のV字回復に向けて邁進する体制を構築することが最優先だと認識し、全社一丸となっていく所存でございます。

投資家の皆様のご理解を何卒宜しくお願い申し上げます。

平成18年9月27日  
株式会社タスコシステム  
代表取締役社長

櫻井 由昭